

## Ⅶ 花 き 作

### シクラメンの仕上期における夜温の高低と品質の関係について

#### 1 試験のねらい

鉢花消費の大衆化とマスコミによる知識の普及により、最近、鉢花に対する消費者の観賞力の向上は著しい。特に、シクラメンについては適確に品質を判断して購買する消費者が一般化しているため、品質の低いものは生花市場の段階で敬遠されるようになった。

年末の大鉢出荷を主力とする本県産シクラメンに対して、このような事情を背景に、ここ1～2年、店頭で傷みやすい、購入後に花が小さくなる、株もちが悪い、などの指摘があり、調査の結果、仕上期における加温期間の夜温の影響が考えられたため、夜温の高低と品質の関係について検討したので結果を報告する。

#### 2 試験方法

試験は場内の生理実験用温室（33m<sup>2</sup>、総アルミガラス温室）3棟を用いて実施した。1棟を夜温の1処理とし、10℃（低温区）、15℃（中温区）、20℃（高温区）の3処理を設けた。日中の温度は各棟の設定温度から25℃の間で管理した。供試品種はロイヒトフォイヤーで、1979年11月1日には種し、9月上旬5号素焼鉢に定植してから1区150鉢を供試した。処理開始は10月15日で、温湯暖房により加温した。

品質の評価は草姿バランスを支配していると思われる10の要素に分け、各要素を6階級に分割して得点配分をし、各要素の得点の総和で評価する総合評価基準をあらかじめ設け、更に、開花数、花器の性状、花色、病虫害、及び、幼葉花芽の発育など、品質にかかわる項目も併せて検討して行った。

#### 3 試験結果及び考察

- (1) 処理区の温度は20℃はほぼ設定温度で推移した。15℃は平均16～17℃、10℃は平均11～12℃で推移した。
- (2) 総合評価基準による評価結果は15℃がよく、10℃がこれに次ぎ、20℃では劣った。
- (3) 開花は夜温が高いと促進された。
- (4) 花器の性状は、10℃が健全で優れていた。15℃もこれに順じたが、20℃ではやや軟弱徒長し、花被が小さくなった。したがって20℃付近で高温管理されたシクラメンは傷みやすく株もちが悪くなることが推定できた。
- (5) 高夜温管理では芽枯れの発生が多く、部位から葉腐細菌病菌が分離された。

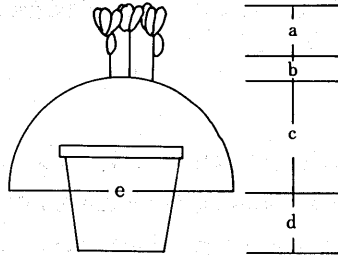


図-1 評価基準の測定部位

表-1 品質評価法にもとづく評価結果 (12月10日)

	部 位 別 得 点										総合得点	規 格
	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j		
低温区	8.0	8.0	4.4	6.0	6.0	1.8	4.0	8.0	7.4	8.0	61.6	B
中温区	7.2	7.6	6.4	5.6	6.8	2.4	8.0	6.0	8.0	7.6	65.6	B
高温区	6.8	6.8	4.0	4.0	6.0	2.0	10.0	4.0	8.0	5.2	56.8	C

表-2 時期別開花数及びそう上花らい数(株当り本数)

区 名	12月10日			12月24日			1月10日			1月10日までの総開花数
	開花数	花らい数	計	開花数	花らい数	計	開花数	花らい数	計	
低温区	10.8	10.8	21.6	9.9	8.0	17.9	19.3	6.5	25.8	40.0
中温区	12.6	9.0	21.6	14.1	6.2	20.3	17.7	6.1	23.8	44.4
高温区	14.8	6.2	21.0	16.2	5.1	21.3	13.3	3.3	16.6	44.3

表-3 花器の性状 (100鉢, 株当り3本平均)

区 名	花柄長(cm)		花柄径(mm)		花器径(mm)		花器重(g)		花卉面積(cm <sup>2</sup> )		弁長(cm)	
	12/10	12/24	12/10	12/24	12/10	12/24	12/10	12/24	12/10	12/24	12/10	12/24
低温区	21.3	21.8	5.2	5.5	3.2	3.5	5.0	4.1	60.0	58.2	5.3	5.5
中温区	21.9	23.3	5.3	4.9	3.0	3.2	5.4	3.5	59.0	55.9	5.3	4.8
高温区	19.2	23.2	4.6	4.2	3.0	2.9	4.5	3.2	58.0	55.0	5.2	4.8

#### 4 成果の要約

20℃の夜温下では、シクラメンの開花は促進されるが、花器が軟弱徒長して不健全となるため株もちが悪くなることが推定され、しかも、不良環境下では花被が傷みやすくなることが考えられた。10℃では開花が遅れ、年末出荷の作型ではダメージが大きい。

以上のことから、仕上期における加温期間の夜温を15℃で管理することにより、品質の向上が図られるため指摘される課題の解決が期待できる。

(担当者 花き部 峯岸長利)